

ちゅうごくでんりょくかぶしきかいしゃとよかわはつでんしょほんかん 中国電力株式会社豊川発電所本館

1. 建物の概要

所在地	益田市猪木谷町
所有者	中国電力株式会社
建築年代	昭和3(1928)年
登録年	平成27(2015)年
構造等	鉄筋コンクリート造平屋一部2階建 建築面積 365㎡



【豊川発電所本館】

2. 沿革

高津川水系匹見川の中流域に位置する現役の水力発電所。
元は出雲電機(株)の所管であったが、昭和17(1942)年に現在の中国電力(株)所有となる。
匹見川流域では中国山地から流れ込む豊富な水量と急峻な地形を背景に3つの水力発電所が稼働している。

3. 建物の特徴

豊川発電所の躯体は鉄筋コンクリート造で、モルタル塗りの外装の上に石積風の^{めじ}目地を施している。正面入口側にはアーチ積みをおぼせる目地が施してあり、中でもキーストーンにあたる箇所には極端に大きな目地仕上げが施されている。

外観は、妻側に4本、平側に6本の^{はしら}柱型を付して壁面を分割し、各柱型の間は下層を縦長の窓を2つ1組として備え、上層はアーチ形の開口を3分割としている。軒面は柱型の間にはコーニス(軒蛇腹^{のきじゃばら})、デンティル(歯飾り)とおぼしき装飾を備えている。

豊川発電所本館は、ヨーロッパのゴシックやルネサンスの建築意匠^{いしやう}をちりばめた古典主義様式をベースに設計者のアレンジが加えられた洋風の建築であると評価される。



【洋風のディテールがちりばめられた外観】



【鉄骨のトラスフレームで屋根を支える】